

編集後記

『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第六号をお届けします。今号を無事に刊行できましたことを、喜びとしております。また、今号の刊行に際して多大なご努力をいただいた関係各位に感謝申し上げます。

今号の内容は、二〇〇九年度の活動報告が中心になっています。丸山眞男文庫の整備状況報告、記念講演会の記録をはじめとして、様々な活動の報告を掲載しました。本センターが企画してきました公開授業「比較思想」及び「総合講座 比較思想」（いずれも共通科目）の報告、読書会報告など、もりだくさんの内容です。

二〇〇九年度の記念講演には、シカゴ大学教授のノーマ・フィールド氏をお招きしました。小林多喜二を軸として、文学の可能性とリベラル・アーツの問題点を鮮明に示された素晴らしい講演でした。小林多喜二が最近再び若い人々に読まれるようになってきたことの大きな意味、現代社会の仕組みの中で小林多喜二が読まれている事実の奥深い理由、が見えてきました。また、東京女子大学の掲げるリベラル・アーツが厳しい現実の試練を受けねばならないこと、逆にいえば、現実の試練を受けとめてこそ新たなリベラル・アーツとして生命力を持ち得ることを、本学関係者の誰もが重く受けとめたことと思います。この講演の記録は、テープ起こしから成稿に至るまで、みずず書房のご協力を得ました。また同内容が、雑誌『みずず』二〇一〇年十一月号に掲載されました。厚く御礼申し上げます。

二つの公開授業、読書会、いずれも年を追って盛況となり、本学学生の

受講者も増えてきています。本学が現代教養学部に学部を再編し、社会科学分野を充実させようとしていることも連動して、学生たちの中に社会問題や政治思想への関心が高まってきているのではないのでしょうか。一般に学生の社会的関心が低くなっているといわれますが、本学では逆の動きがあるともいえます。丸山文庫の果たす役割が、学内・学外で高まっていることを感じさせる動きです。

今号には、未公開資料の中から、「旧制第一高等学校における政治学講義草稿」を、解説とともに掲載しました。戦後間もない時期に、新たな政治学・政治思想を構想しつつある丸山の姿がうかがえるように思います。この草稿の翻刻と解説にあたっては、丸山眞男文庫協力の会の皆様にご尽力をいただきました。

二〇一〇年七月には、文庫の未公開資料を全面的に公開するに至りました。このことについても、丸山眞男文庫顧問及び協力の会の皆様に多大なご尽力をいただきました。合わせて、厚く御礼申し上げます。

この未公開資料の全面公開により、基本的に公開のための作業は完了いたしました。もとより、資料公開という作業は、いったん公開しても新たな発見があったり、新たな整理が必要になったりします。今後とも、本文庫の資料をより良く生かせるように、改善を重ねて行く必要があると思われます。関係各位と利用者の方々の皆様のお力添えやアドバイスをいただければ幸いです。

公開資料を核として、丸山眞男文庫の利用が一段と高まり、学内・学外で研究が進展することを期待します。本センターの活動の全体が本学の発展の力になり、且つ広く社会的責任を果たせるものとなるよう祈りたいと思います。

東京女子大学比較文化研究所附置丸山眞男記念
比較思想研究センター報告 第六号

二〇一一年三月八日発行

編集 安藤信廣

発行 東京女子大学

〒167-8585 東京都杉並区善福寺二―六―一

印刷 ㈱丸井工文社